

情報えひめ（財団からのお知らせ）【125号】

今回の目次

◎イベント・募集情報等

- [1] 【助成事業】 募集について（お知らせ）
- [2] 「中小企業診断士養成課程」の募集を開始します
- [3] 研究開発助成金公募のご案内
- ※ チョット「一服」⑦ ～話の彩りに～

—[イベント・募集情報]—

◆ [1] 【助成事業】 募集について（お知らせ）

えひめ産業振興財団では、「地域密着型ビジネス創出助成事業」を実施しています。

愛媛県内で培われた製造技術や豊富な農林水産物、良質な自然資源など、地域資源の活用や地域のニーズに対応した「地域密着型ビジネス」を新たに開始しようとする個人や中小企業者の方に対し、初期的経費を助成する助成金制度について、次のとおり募集しますので、お知らせします。

●助成対象者

- (1) 法人を設立して地域に密着した事業に取り組もうとする個人又はグループ
- (2) 地域に密着した事業に新たに取り組もうとする創業後5年未満の中小企業者

●助成対象事業

- (1) 県内で培われた製造技術、豊富な農林水産物や特産物、良質な観光資源、森林などの環境資源、その他の地域資源を活用したビジネス

※地域資源については以下をご参照ください。

[http://www.pref.ehime.jp/h30300/1195994\\_1878.html](http://www.pref.ehime.jp/h30300/1195994_1878.html)

- (2) 地域ニーズ（地域課題）に対応したビジネス

※(1)、(2)について助成対象事業に該当するか否かは、事前に必ず財団事務局に連絡のうえ確認してください。

●助成対象経費

助成対象事業を適切に実施するために必要な経費であり、1年以内に発生し、支払いが完了する経費。

●助成率及び助成期間

助成率：助成対象経費の【3/4以内（上限150万円/1件あたり）】

※事業内容、規模等により助成額を減額する場合があります。

助成期間：原則として交付決定後から平成31年3月31日まで

※事業期間について、年度内での事業完了を基本としていますが、事業内容及び規模等により翌年度への繰越しについて随時相談させていただきます。

●関連URL

<http://www.ehime-iinet.or.jp/zaidan/fund1/bosyu30.pdf>

●募集期間

平成 30 年 3 月 13 日（火）～平成 30 年 4 月 13 日（金）

※平成 30 年度については、上記期間のみの募集になっています。

※郵送による場合は、平成 30 年 4 月 13 日（金）17 時までには必着のこと。【厳守】

●関する問い合わせ先

（公財）えひめ産業振興財団 産業振興部 産業振興課

担当：中矢、白形 TEL 089-960-1201

◆ [2] 「中小企業診断士養成課程」の募集を開始します

～中小企業大学校東京校からのお知らせ～

「第 30 期（通算 87 期）中小企業診断士養成課程」の募集を開始します

～50 年の伝統、8,200 名以上の中小企業診断士を輩出した実績～

中小企業大学校東京校の「中小企業診断士養成課程」は、中小企業診断士第一次試験を合格した方を対象に、実際の企業事例に基づく実践的な「演習」と実際の企業を診断する「実習」を通じて、現場感覚に根差した「実務能力」・「人間力」の高い中小企業診断士を養成する 6 ヶ月間のコースです。

中小企業支援機関、金融機関等の職員として中小企業の支援に携わる方や、多様なビジネス経験などを活かし、中小企業への支援を通じて、地域・社会の発展に積極的に貢献したいという個人の方や実践的な経営支援スキルを習得したい方などの応募をお待ちしております。

<開催概要>

名称：第 30 期（通算 87 期）中小企業診断士養成課程

定員：40 名

募集期間：平成 30 年 4 月 16 日（月）～平成 30 年 5 月 15 日（火）

開講時期：平成 30 年 9 月 25 日（火）～平成 31 年 3 月 28 日（木）

※詳細については以下の URL をご参照ください。

<http://www.smri.go.jp/institute/tokyo/training/supporter/smeconsultant>

【お問い合わせ先】

中小企業大学校東京校 支援研修課

東京都東大和市桜が丘 2-137-5 電話 042-565-1273

◆ [3] 研究開発助成金公募のご案内

～三菱 UFJ 技術育成財団からのお知らせ～

三菱 UFJ 技術育成財団は、技術指向型の中小企業の育成を通じて、我が国産業の発展並びに中小企業の経営高度化に貢献することを目的として、昭和 58 年に設立、発足しました。当財団では、このような目的を達成する事業の一環として、設立以来、新技術・新製品等の研究開発に対する助成金の交付事業を行っております。

今年度第 1 回目となる助成金の公募を、4 月 1 日より 5 月 31 日まで実施します（1 件最大 300 万

円、交付決定時前払い）。

新規性に富み、意欲的なプロジェクトのご応募をお待ちしております。

【研究開発助成金】

■応募資格者・プロジェクト

・新技術・新製品等を自ら開発し、事業化しようとする具体的な計画を持つ、設立または創業後もしくは新規事業進出後 5 年以内の中小企業または個人事業者。

・現在の技術から見て新規性のある研究開発プロジェクトで、原則として 2 年以内に事業化の可能性があること。

■助成金額

・1 プロジェクトにつき 300 万円以内 かつ 研究開発対象費用の 1/2 以下

■公募期間

・4月1日～5月31日

■選考方法

・学識経験者等で構成する当財団の審査委員会にて厳正かつ公平なる選考を行います。

詳細は以下リンク先もしくは応募要項をご覧ください。

<http://www.mutech.or.jp/subsidy/>

尚、当財団では、助成金交付に加えて、より長期的な視野で支援する目的で、当財団が株式（最大500万円）を保有する事業も行っております。創業以降の成長ステージに対応する形で株主になることにより、長期的に支援して参ります。

【株式保有】

■対象企業

・当財団の助成金交付または債務保証を過去に受けた中小企業のうち、当財団の助成金交付または債務保証を受けた際のプロジェクトによる新技術・新製品等の開発及び事業化が実施され、成長が見込まれる者。

■保有額

・1社につき500万円以内（対象企業の議決権の過半数を超えない金額）。

■公募期間

・随時

■選考方法

・学識経験者等で構成する当財団の審査委員会にて厳正かつ公平なる選考を行います。

三菱UFJ技術育成財団

萩（03-5730-0338）

◆ ※ ちょっと「一服」、⑦ ～話の彩りに～

☆☆

最後は松山市中村町に移って、伊豫鉄道電気株式会社職を奉じた。身分は技師であった。

\*国木田独歩の「非凡なる凡人」の主人公のモデルである桂紉(ただす)について  
(『街道をゆく』、36「神田界限」p.353)【朝日文庫】

桂紉(1878～1929年)は没落した長州藩士の長男で、少年期を山口で過ごした作家国木田独歩の幼なともだちだった。彼は、貧苦のなか上京し自ら生活費と学費を稼ぎ、神田の夜学校で電気工学を学んだ。彼は自らの手記に電気工学の知識を「渡世ノ術トナス」としている。また、自らを「世界ノ文明ノ児(コ)ナリ」とも自負している。

こうした生き方を間近に見ていた独歩は、自らの愛読書である西国立志論(さいごくりっしろん)(1871刊、英国原書は「自助論(セルフヘルプ)」)の考え方を体現している桂を小説の主人公とした。

司馬は、明治時代の夜学校の功績の一例として、「非凡なる凡人」の主人公のモデルである桂をとりあげ、夜学校が、「自助論」的な「明治の精神」を具現化するための手段として大いに役立ったことを評価している。

五島列島の電化に貢献した桂は晩年伊予鉄道に勤めるが、その時期は伊予鉄道高浜線の電化の時期(1931(昭和6年)に重なる。すぐれた電気技術者だったのでしょう。

さらに秋山好古が北予中学校(現在の県立松山北高校)の校長であった時期(1924～1930年)とも重なる。好古が中学校教育で目指す国家の中堅をなす人の典型は、まさに桂でしょう。当時、ぜひとも二人の交流があったと、愉しく想像したいですね。

((公財)えひめ産業振興財団専務理事 渡瀬賢治)

☆☆

財団専務理事の渡瀬です。私の愛読書『街道をゆく』(司馬遼太郎)を中心にした話を綴らせてもらいます。皆様方の話の彩りの一つになれば幸いです。

